

立石郵便局／別府扇山郵便局

Corporate data

【立石郵便局】
〒879-1302
大分県杵築市山香町
大字立石2286-1
TEL.0977-76-2442
【別府扇山郵便局】
〒874-0849
大分県別府市扇山11組
TEL.0977-25-2527

日本郵便における
ダイバーシティ推進の取組

全国の郵便局を運営する日本郵便が障がい者雇用を本格化したのは平成18年。日本郵政公社で全国的に知的障がいのある方を非常勤職員として採用したのが始まりです。現在では、雇用している障がいのうち、特に指導者の支援を受けながら働く社員を「チャレンジド※1」と呼称し、障がいの者が多様な職種で活躍できる仕組みやサポート体制を整えています。また、今年度の中期経営計画「JP※2ビジョン2025+」では、社員40万人の多様な視点や価値観を活かしたイノベーション創出を明示。障がい者雇用はもちろん、女性活躍、ジェンダーギャップ解消、高齢者就労、外国人雇用など、多様性を尊重する職場づくりを推進しています。

※1 アメリカの障がい者団体が提唱した、障がいのある人を「挑戦する機会（challenge）を与えられた人」と前向きに表す名称

※2 Japan Post（日本郵政グループ）の略



▲立石郵便局 局長・工藤俊輔さん

立石郵便局
はじめての障がい者雇用

杵築市の立石郵便局が障がい者雇用に取り組みきっかけとなったのは、昨年1月に開催された障がい者向け合同企業説明会でした。地域9局の障がい者雇用推進担当として、雇用推進に向けた情報収集や意見交換を目的に参加しました。事前に県庁の福祉保健部の方に相談して資料や話す内容を考えています。当日は50人ほどとお会いしたと思います。郵便局での仕事に興味がある

適性に応じて
業務を決定

る方複数名と名刺交換をしたりするなど、障がいをお持ちの方と繋がる良いきっかけになったと感じています。その後、何名かの方は実際に郵便局にお越しいただいたので、仕事の様子や職場の雰囲気を感じていただく場を設けたりもしました。そういった経緯の中で、水原さんの意向と採用のタイミングが合致したことで採用に至りました。そう話すのは局長の工藤さん。水原さんは足の障がいや病気の後遺症を抱えていましたが、仕事への適性はもちろん、本人のやる気と熱意が評価されたとい

います。郵便局の業務は複雑かつ多岐にわたります。窓口業務も「郵便」「貯金」「保険」に分かれ、すべてをこなすのは健常者でも容易ではありません。水原さんも最初は窓口業務全般を担当する予定でしたが、足の障がいに加え、病気の後遺症



▲水原元一さん(左)と合澤瞳さん。休憩中は話好きな水原さんと雑談で盛り上がることもしばしば。

う空気が生まれました。環境を整え、障がい者への理解を深めることが、職場環境の改善、真の企業価値向上につながると感じています」。

ともに働く合澤さんも「局長や水原さんとして「ミニ」ミニケーションを取り、『どう配慮すればいいのかわからない不安はなくなりました。水原さんが雑務を請け負ってくれるので、全体の業務効率も上がったように思います』と笑顔を見せてくれます。二人が口を揃えるのは、特別扱いはいらない、困っていれば手を貸し、互いに感謝の心を持つ。それが当たり前に根付いた職場には、「障がい」という垣根はありません。



▲水原さんは郵便窓口で切手やはがきの販売、ゆうパックの受付などを担当。常に明るく接客を心がけているそう。

やっとたどり着いた
「私の居場所」

チャレンジド雇用の時給制契約社員として働く水原さんは、波乱万丈の人生を歩んできました。20代でスポーツ中に右足を、30代で事故により左脚を後遺症が残る形で負傷。50代では大病を患い、記憶力や視力、聴力にも影響が出ました。それでも常に前向き、明るさを失うことはありません。

「東京で働いていたのですが、大病を患ったことと、高齢の両親のそばにたくて地元に戻ってきました。郵便局は皆さんがさりげなくフォローしてくれますし、お客様と話すのも楽しい。いろんな職場を経験しましたが、自分に最も合っていると感じています。あと、実は郵便局は子どもの頃からの憧れの職場だったんです」そう照れたように教えてくれた水原さん。同僚やお客様に支えられながら、いつか「貯金」「保険」業務にも挑戦してみたいと意気込んでいます。本人のスキルと意欲があれば様々な業務に従事することができ、障がい者活躍の可能性はあらゆる方向に広がっています。

大分県各地の郵便局で
障がい者が活躍

別府市の別府扇山郵便局には、昨年3月、障がい者向け合同企業説明会をきっかけに後藤さん（身体障がい）が入局しました。「以前は栄養士をしていたんですが、体力的に厳しくなってきた。そんなとき合同企業説明会で郵便局の業務を知り、『ここなら無理なくできそう』と興味を湧きました」。



▲後藤沙綾香さん。月に4～5回は他局の応援に出向き、地域の郵便業務を支えています。

現在は「郵便」「貯金」の窓口業務や局内の飾り付けを担当。保険業務も担えるよう資格取得の勉強にも励んでいます。忙しい毎日ですが、お客様から「がんばつちよんね」「あなたに頼んでよかった」と声をかけられることも多く、それが大きな支えになっているといいます。明るくムードメーカーでもある後藤さ

んは、ともに働くスタッフからの評判も上々。局長の森さんも「今は無理せんでね」と声をかけるくらいで障がいを意識することはほとんどありません。逆に助けられることの方が多いです。他局の応援にもよく行ってくれますし、こちらはもちろん、地域の郵便局全体が助かっています。いまや必要不可欠な人材です」と厚い信頼を寄せています。



▲別府扇山郵便局 局長・森康弘さん(左)と同僚と一緒に。

郵便局の強みは同士の連携の強さ。雇用情報を共有しながら、障がいの有無に関わらず「選ばれる企業」を目指し、新たな雇用の可能性を模索しています。